

蒲郡市地域公共交通協議会

平成25年3月1日設置

調査事業の概要

調査事業の背景・目的

蒲郡市は三河湾の海岸線に沿って東西に長く、平野を取り巻くように山地が分布しており、平野部を走るJR東海道本線、名鉄西尾蒲郡線を軸として、まとまった市街地が形成されており、そこへ通じる交通機関として、路線バス、タクシーなどがある。しかし市の北部、特に山間部には公共交通空白地域が広がっており、この空白地域の早期解消が必要となっている。

市内の公共交通利用者は減少し、公共交通事業者の経営が圧迫され、公共交通事業者に任せているだけでは、地域が必要とする公共交通サービスを確保することが難しくなっており、このため蒲郡市では、交通サービス維持のため交通事業者に対し支援を行っているが利用は伸びず、バス路線の廃止、名鉄西尾蒲郡線の存続問題と地域の公共交通体系に綻びがでてきている。

第四次蒲郡市総合計画においてあげられた「子どもや高齢者が安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、公共交通体系を一体的に改善することを目標とした、地域公共交通総合連携計画の策定のための調査である。

調査の主な内容

蒲郡市の地域構造、公共交通実態等の現況分析

住民ニーズ把握(市民アンケート、利用者アンケート、市民との意見交換会)

課題問題点の抽出、対応方針の協議、連携計画案の策定

協議会の開催状況、議論の概要(予定を含む)

都合5回開催

(H25.6.6、 H25.9.20、 H25.11.13、 H25.12.27、 H26.2.10)

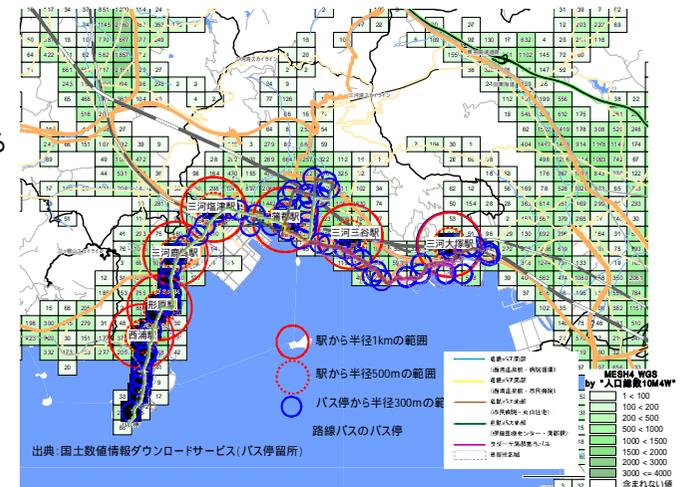
調査結果の概要(予定を含む)

『子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の構築』と『地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の構築』を将来像とする蒲郡市地域公共交通総合連携計画(案)を策定する。

公共交通の影響範囲の把握(空白地の確認)

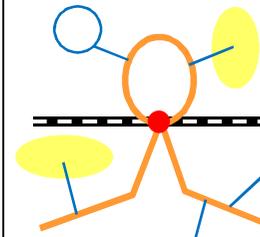
鉄道駅から
1km圏域

バス停留所から
300m圏域



公共交通空白地解消のための実験的取り組みイメージ

ネットワークのイメージ



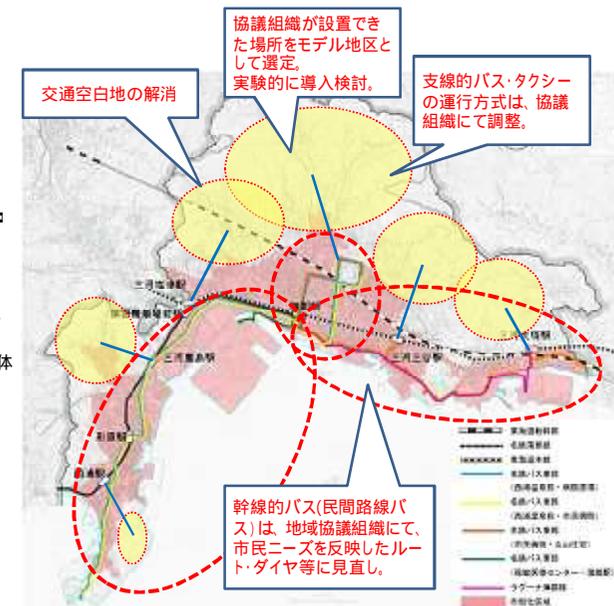
鉄道・幹線バス・支線をつなぎ、全体の利用を促す

ネットワークを形成するモード

骨格 = 鉄道

幹線のバス = 路線バス

支線のバス・タクシー



具体的取り組みに対する評価

現況分析に対する評価 = A評価

「蒲郡市の将来人口推計(2020年で4489人減)」、「公共交通の影響範囲(空白地居住者約2万人・24.5%)」、「公共交通の利用実績の推移(減少)」など、現況分析について定量的把握に努め、実態が確認できた。

市民アンケート調査の評価 = A評価

- ・市民6,000人に対するアンケート調査を実施。
- ・有効回答数2,360人(回収率39.3%)
- ・現況のバス利用率は1割にとどまり、ほとんど利用されていない。公共交通維持に対する税投入水準について過半数が「多い」と評価。
- ・市民の交通行動と今後の対応意向が確認できた。

利用者アンケート調査の評価 = A評価

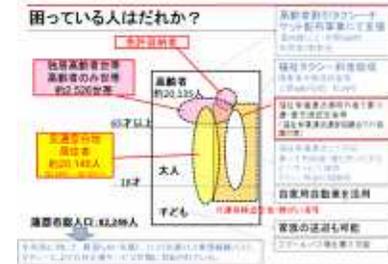
- ・路線バス利用者に対するアンケート調査を実施。
- ・942人に配布(有効回答365人、回収率38.7%)
- ・ラゲーナ線:6~7割が市外居住者。市民利用乏しい。
- ・西浦病院循環線:利用者の5割が形原・西浦校区。蒲郡駅・病院利用が中心。名鉄乗継乏しい。
- ・既存路線の利用実態、将来意向が確認できた。

アピールポイント(特に工夫した点)

市民との意見交換会『地域公共交通について語る会』の開催

- ・蒲郡市民の公共交通に対する「生」の声を確認するため意見交換会を開催。7会場、80人の参加。
- ・公共交通の利用状況や税投入実態等、現状の報告説明も兼ねる。
- ・現状実態のプレゼン説明後の意見交換であるため、「単なる要望だけでない、よりリアリティのある意見把握」が可能となった。
- ・地域公共交通会議の市民代表委員の参加・傍聴もあり、交通会議の意見交換が活発化した。

事務局からのプレゼン資料



意見交換会の開催風景



生活交通ネットワーク計画の策定に向けた方針等

地域が抱える課題・問題点

1.現況分析から見た課題問題点の把握

- ・少子高齢化人口減少等

2.住民利用者等アンケート結果から見た課題問題点の把握

- ・バス利用者:住民の1割
- ・税投入は過半数が多いと判断
- ・現状維持もしくはサービス抑制意見多い

3.意見交換会から見た課題問題点の把握

- ・バス利用者:住民の1割
- ・税投入は過半数が多いと判断
- ・現状維持もしくはサービス抑制意見多い

上位計画・会議意見

「蒲郡市第四次総合計画」における公共交通の位置づけ

交通不便地域の対策
公共交通空白地域の早期解消を図る
移動制約者をはじめとする市民の生活交通手段を確保するため公共交通機関を支援する

地域公共交通会議での意見

本当に困っている人の意見を吸い上げた計画にして欲しい。

公共交通の将来像

公共交通の将来像

子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系を構築する。
地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系を構築する。

将来像を達成するための基本方針

将来を見据えた段階的な計画の構築
将来像 = 鉄道を中心とした交通ネットワーク網の構築
中短期対応 = 空白地解消のための実験的取組
地域資源の活用・関係者間の連携強化の拡充
事業を確保維持するためのPDCAサイクルの導入
公共交通中心の生活転換のためのMMの推進

計画に基づく事業

バス路線の見直し、交通空白地におけるフィーダー路線(デマンド型交通等)の実験的導入、地域協働推進事業の実施、PDCA等

今後

フィーダー路線導入、地域協働推進事業はネットワーク計画策定

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価(一次評価)結果報告

平成 年 月 日

協議会名:	蒲郡市地域公共交通会議
-------	-------------

実施事業:	確保維持事業				バリア解消促進等事業			調査等事業	
	幹線	フィーダー	離島航路	離島航空路	バリアフリー	利用環境改善	鉄道安全	調査	協働推進

地域の交通の目指す姿:	<p>公共交通の将来像 子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系を構築する。 地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系を構築する。</p> <p>将来像を達成するための基本方針 将来を見据えた段階的な計画の構築 将来像 = 鉄道を中心とした交通ネットワーク網の構築(交通空白地の解消) 中短期対応 = 空白地解消のための実験的取組 地域資源の活用・関係者間の連携強化の拡充 事業を確保維持するためのPDCAサイクルの導入 公共交通中心の生活転換のためのMMの推進</p>
-------------	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

平成26年 月 日

協議会名： 蒲郡市地域公共交通会議

事業の結果概要	事業実施の適切性		生活交通ネットワーク計画等の 計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【調査事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>蒲郡市の地域構造等現況分析、公共交通の実態把握、市民アンケート調査、利用者アンケート調査、地域住民との意見交換会、上位関連計画の把握等を行い、課題問題点を抽出。その対応方策を検討し、「蒲郡市地域公共交通総合連携計画(案)」をとりまとめる。計画のとりまとめにあたっては、蒲郡市地域公共交通会議を都合5回開催し、関係者間の合意形成を行う。</p>	A	<p>地域構造等現況分析及び市民アンケート調査、利用者アンケート調査、地域住民との意見交換会を実施しており、課題及び住民意見について把握に努め、調査事業については適切に実施されている。</p>	<p>調査事業を活用し、地域公共交通総合連携計画を策定する。当計画において、デマンド型交通等の実験的導入(H27年度以降)によるフィーダー路線の導入、利用促進活動等として市民ワークショップ(H26年度等)、パンフレットの作成(H26年度等)、モビリティマネジメント活動(H27年度等)による地域協働推進事業の申請予定。</p>

評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。